1928
9

文化
甲子仲冬

南川

山水

強弱文之〻作

猫の
井
夕
上
井
掬
伏
油
日
和
降
志
生
鼻
一
今

強弱
年別
買色
奥州
像人
月花
人名
当
三木八
出人
五等
名集

○

山の井の井のいい
秋色
幽灵
六
羊畑
釈
蛸
天
秋
須
通
礫
来肥

島　得器

女[illegible]
[illegible]の赤乃赤名
多ハ[illegible]き赤紛の林城
日句[illegible]山覚
下馬[illegible]軍の城の化物
広の[illegible]人ら称紀[illegible]寄
弓[illegible]通し矢の連
[illegible]鯉ハ[illegible]南ら綱ハ売
揚[illegible]時の陽ル木
陰[illegible]納ら[illegible]好
[illegible]朝日を葬れ去
[illegible]落山のようにはか茶毛
[illegible]のなをわかる栗御
二[illegible]枝間[illegible]
[illegible]方句ら花住[illegible]の文

生[illegible]
赤　人名
買色　蝶
弓　女
柱抑ハ[illegible]

大羽其[illegible]
北樹[illegible]
俊ら[illegible]
茶の[illegible]
約赤[illegible]
[illegible]の[illegible]
浅陰ハ[illegible]
[illegible]玉[illegible]
[illegible]鯛
[illegible]
孝[illegible]
宋女[illegible]
陰り[illegible]
[illegible]基さ[illegible]
[illegible]樹[illegible]
[illegible]茶称[illegible]
[illegible]小口[illegible]
[illegible]赤小[illegible]
[illegible]の井面[illegible]
[illegible]陰ハ[illegible]
[illegible]糸ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]宋女[illegible]
[illegible]昊[illegible]

強弱かるくうたふ
ものなり仁もまた
しかるべし

神武紀
所在種物
人名各不
鳥獣
物名のこと
くさ木のこと

四角かるき　後探の口
くと有るを抱を呵らる
ま拭の絛かるを嗜き
女かるき　光羽織羽二重藩の紋の両
いろかるき　夏も歩の実の内开戸
相州　沓の注切れるかるき鍵
沓青き切石のごへ
声色の壁ハ探の数計
唇色　光妙蛇かるき懶
弁当　菓子　受くる滅の及
合しく親候森別れ

梅亭

強弱交ゝ
茂る 大黒
梅 子 画
る 皆き 亥
梅和 買色
人名 地名
鄙ひる自
人情の外
春ぬ春のも
ヒュヒュつくゝ
何しもけやけゝ
出くゝハいゝ
一件ゝゝふゝゝ氏
三句のゝゝゝ一巻の
そゝ尾おゝゝゝ

島一芳

帝ゝゝ国を車角お利てゝ
啄木の木魚を却くゝ木のゝゝ
鳳ふきゝ日夏蚕の繰乃羽の戟き
傘宝くゝをや悟をゝ少ゝゝ跡のを
補陀ゝゝ楓色ゝゝ
山のゝ宇鰻幻ゝお団子
芋菜才を逸ゝ木摘ゝゝ
蔓ゝのゝ純るのゝる多志
菜のゝ化ゝをゝの圏の端
梅の花ゝ中小大根の男ゝ
吹矢ゝゝ下ゝゝる敵も凡敵人
ゝゝ萩締ゝゝの筈ゝゝ

玉冷し豹滝おかる石沿の切
豹室 府馬小艇 時天の夢
阪嵐 の侵るゝゝふる
伽 蓋の噂 亥小振 初
呉用を好ノつる春玄不
売のゝ文ゝゝきゝ日
傘を張ゝゝ石小石の日
撥へ一矢ゝゝと舟亦ゝ
坂ゝゝゝゝけ玄統坂
袴ゝゝ亥の肉小石舎り
血刻 陣ゝ云るへゝる
石ゝ振石の松蓋玄ゝ一ト石
風雪ゝゝ亥色へゝ小る拇紙
傘を動ゝ流の丑ゝ岩ゝ
角ゝゝふゝけふゝ

方圓井

白仙翁
古き軍
芝兵の
梅樹牡丹
菜冨士鷺
猫馬子
蚊琴歌
秋
月出る白仙翁
月花も三名有
ゆく迄き人格
此花の句もんの
一場井の門人乱
一句のくわ菜之心

蝉団
歌樹
猶山
宗
派
楊
夕
花
猫
歌
二
一

得北

東
雛
吹
秦
従
を
梅
天
芝
相
一
者
星
乙
千

残らぬ廣物見むる次广の寺
君ろ梅のぶちに夜の香
伏見一丁し忌の伏勢
抱て片つる鳥籠の猫
丸金にい子庵麿して新
茶投とおれは弁切も今
夜討に勝をぬきし新兵
寄業く□□腹く吹む酒
誰の芝居の翌は何の赤
江一物之咲らちる芥子
孫兵衛が抱けは瓢箪る
当十郎が廢中の笠
似るりで金の鶏に酔る妓
巨燵も入て梅に巫根舟
も川岡る早もつくぬ衣
杜丹廿日の庭に指酒

寥齋

強弱交ゑ人し往
之句のまゝうちまゝ一
好む所とりしこと
何かよりくるも
かし一体流き
方よし人各所て
見えずしる白
いつれ彩しく
こまりに見得る
白にうゑも何り
買之色　人名
梅　弓馬の膠
てみて叫歟

贈答生　李岱

弓引く人の弓見る夜久ア
指掛化物追従癖らしきい
遍照も優逢もかくし一廻り
日に乏き大店もの金くかり
伽に看人を若衆の茄ひ物
きつくりし木刀到あるす想吉
出多用もけたれしと当へ人切る
鬼ら毛もへいさ俺人ようき乳呼
錦舟は街道の松に月見へて
姿まれて勢くうんぬくめる
ひ娘の気あるは此鶏ひらむ
省見は見えて来る文吐面
壱千鳥崇く崇ぐる国の若
松の内一瓶撲の客をうし

李門田

十六へんかやわら
蚕の外 木偶
肉ふ 旋行
菊体の外
ろの句
五十三次の地名中
も稲子次の句
江の島陽会の
句よりつゞく付ふまでも
さゝ

伊藤九洞

強弱文之一
のこと
ケイ十七
孝
人名
江戸北名
西工殿
孝
実信
異色
種知
志迎
孫子の北名
称法の名

若い〳〵浮世を美の一字で濡
揚　是迄ひ名代〳〵廓る
や　庭も二ケ所に流れ水
小　松の枝ぶり
一文　風こゝ〳〵の日和小袖
初　門を祝ひ〳〵振袖姿の群
江戸の自立のあら〳〵日を追
抱　きのこゝ〳〵女の智恵を学ぶ
む　ものもむつかしの多の添ふ
根　本の花打ち仰の松

強弱変ゝ〳〵一件
〳〵句仙ゝ
軍体　戦ひの姿
捕ゑ　話体
買色　城
虫絵　棺
滋　山坂
名根の温泉場
神祇　蛇
根　山蛭
斗桑
筑波　神木
初雪の句　繁ゑ
絵ヲ　おり〳〵
お帝ゑの句別て

渕　油引ゝ日〳〵そびのつる亥
捕　ものゝ龍城の尿
老　畠亦文〳〵虫の多〳〵
生別　ちおかゐ〳〵蓋の花〳〵
入玉　下知変ゝ〳〵首井筒
木　ふり〳〵る近ひ小使
松小坊ゝ教〳〵の木登者
究竟ゝ出〳〵ゝ乗ゐて〳〵ん
〳〵〳〵ゝきゝ小多〳〵岬の皇の下

五十三次の地名をよく
覚ゆべし
京大坂江戸地名
ゆけば京大坂地名
小さき島ゆく
江の島乃句近示
の地名
伊勢とよめる句
さき上の句
竹ばんざいさき
句小さき島ゆく

葉内の誉れ上一誉の尾
鯱き役の海から行く月
陰江の島の秋小大塔の文
江の島も汐ふむ如戸の岩屋
日きりとも我焼の跡
抱付き傳ひ廻る妻所
掃除波とも中沖荒
気食ひる浮を上るふれおつく
伊勢の利生ハ唄ふ口ずき
多拍や云き苺ゆく人も
上 段一 梅 三 き 村
夜まふるとも撫の竹 沈
八や南湖梅仮ふなりば
去年の傳新小屋の乱拳
ハ唄ふ口ずき

十六人の通ふて
[illegible]
塘との別ち
[illegible]
[illegible]
三千の津の地名也
[illegible]

凝嶮峭の
[illegible]

水鶏　鶫の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

抱一坊

芭蕉滅泉虎溪

蝸牛庵

古例坐

東

阿澤

強弱文少し
付こゝろの
近江名所の地名
村名
伊勢物語の

囲碁盤
茶器 人名
根懸 植物
京色 いり
重箱
うけ
ゝ

曲笠

拘
天
納
代
業
囲
掃
女
沈
砂
弱
附
礼
ち
ん
ま
通
橋

田中山花

幻々瓢別

千東其爪

石橋宝壽

雲飛窓物我

温泉　水辺

突出しの福禄伽陵頻
日本へ手出しは鴉頭の始り。斧
振しれさり房付の婚く
今整しくもつとめいやく
口の光れ奴紙かして振る
夜まし並く岨に縮子罠
子らも綱に立く振いさ
猿ゝ夫へ素る引伸しの毛
家畜を垂しに挿る木偶
支吹しもに医者呼に出る
雪を見る事子を見に行
凡盗人をきゝしけ炎天
不光るも泣く子なくらしく
江戸者に神さへなる芦咲
犬も傍常言気着雲
南かしこの人乃化粧

文笑庵

強弱文りて絹ハ
まてしきらくはし
かけ合て見給ふ。
わたく

誹　釈
塵を濁尼
振　馬
猫　婦人名
翁丸　ひゆ
夜鳴か鰯九
こいなる台なし

桑貞杆

玉のいし楓の紙に云りそもし
詠しれる果ハ旧有へ年の累
着たひに悔ていへハ知りし
筒るやいまく木首談ハら化粧子
虫光に夕栽れハ蚊の名に
死ぬらめ中ともとりは来えて
塵を徳のもりにるしるタ猫
男補の事を味合のまくしま
口の周え奴肉ハ持ちぬ雪をさ广
重の侘安なりしも一筋て
り慕やしせ御乱のむくしけ
盆踊りるを攻むとのりあるもはし
肉房の床に火を消る燦　続
是ある東の佐知に満し　きさ井つゐ下

伊佑岡雁宕

強ゐて
人名植物抔
理釈世話
又は語ゑ
ケ合　又
白中小説等
也

膳を
蜻
河
変死の
経験乃
主ゐめ
清貧の
兄弟二
梅ゐ
ま命ゐ
萍や風
のろ〳〵
夜〳〵
焉ゑ

米花庵

強弱文字　白き
小松ふるき

一体植物ニ
蘖衆名不
良然尾
赤色
芝居のまくあくハ
ゼんの葉のうち
あくこと有る附ハ
言忘れり
又田社の好不
ら

白柳田社

わびしき寸二葉翁の杖
茂みけるしく盛りし爽杖
ともいろかと連へ云借
筆を取出る遊り火
柿生の家ハ此鳥のとえる
然えくしじて五とんの目の枝
振しれし翠乃隠米を買
あ子の鳥をあらく旅を
袖しとめさやく娘ふしてゆく
覚さじきふとしれぬ鳥
団平の夜嚢二ヶ萬鉄杖
連り返しく客様く茶ふ
贈や杏を教を新造の夏
禪干くも夕かへの宿
蓑の縁の生るこけ帯
袖口

竹堂

芭蕉門一派溪一戯

強弱お交り付え句
のとらりす一之仮令
好不の句とハいへども
三句の付味何りけれバ
よく相変くなし
神　釈　哀
恋　買色
名情　世話
京色　植物
軍　生気
魚漁の噂　温泉場
地名ハ伊勢　甲斐
勿論五畿内中山道
東海道　家名
旅作　左作

本後ハ寮の秀乃蘭の白し
雨後の夏田の早苗帆かけ
米荷を揚る伊豆の夕月
飛ハあびの丸太ふ鶴吹れ雲
伏見の坂や墨染の月
さればあふたびしまへ
もくとらぬ箕の山路をさとく
良笛光ふかへは
姫ちらしる金山のき
出しきや晃ず女郎ふ
先よりは句を略
此衣志ハしおらけ錦ふ内裏雛
火串ちる枝ふ一夢表の嫁
裏　不二の林蘇も梨子の花

東都 蕉窓 平砂側 皐月平砂

非社仏閣古跡
又武蔵名所
小金井桜の模
ハこも迎の地名
有能ら玉花猫覚
猫弱ハ片
能
下の歌仏句を
案ハ十六ぺんかるた

新造小日ハ赤
蒲団
秋の
忘がき
別恨
森
玉
井端
良
廊
若の
長
生
月
不
の
艮

強弱更ニ一月花
世ふんとふ
ありし先
たゞハなし
姓　兎　妾
買色　面士
面士沼　霊
能　同面
同狂言　柏人
用捨　徐琉坊
此おもかげ仏句
句或ハ
二三ぺん

食笥
面士沼の夜の霊写ふ鯉
弦
柏人
蓋
狐
右
一畑ハ黄菜
裸
の甲
北
厂
食ふ竜の九ふ
の夜の霊写ふ鯉
の梅の日ふ大
人
戦ふ
ふ
の構
奴
物
焼ふ
の
若
菜
生
蟇
ら一千縄ふむ
この花籠
の捨似
夜を露ふ衣
祭
盤ふ旭ふ
連
琴
篤
後
沖
の後数
ふ
の霊
の葛
袴

皐月東故

強弱ナル小方ヲ組ミ合セテ一体トナシ又ハ一ツ体ヲ二ツ三ツ体トナシ

弁　釈　買色

植物　水辺

京色　弓馬ノ事

旅体　立派

ヲ　江戸ノ

商売体ノ句

食物

季ヲ主ニ肉ヨリ

出ル物ヲ記キ名

ノ如ク

一ト枝ノ松ヲ木ニテ作リ其ノ

土ヲ合セ活ケ縛リ付ケ

制　札ヲ付ケ

腕ノ如キ形ニ活ケ其ノ瓶黄山

ラサヲ深物ノ前ニ

従ヒ箸ヲ附ケ

箸ニ従ヒテ深物ノ外ノ

同ク桃ヤ一ツ〻〻〻〻

連退ク前途ニ

大下馬ヲ蹴ル

上菓子ノ

先ヲ志ス

泡ヲ

世ハ弓

女房打

夢ヲ通ノ

ヲ白ヤ

風ニ

ロヲ

世利ニ

暦ヲ

今ヲ

尾ヲ

仲人

ニ

妹ヲ

ヲ

盆山

ノ一句

ヲ

夜ノ

油ト

慕そかしきの皆竜田姫
廻り蛯篭の赤くしろし
末貝流りの枕うせ山
首代小出は暁が今
桜に墨る小金井の橋
千生瓢箪の節里
杓把の油の菜る大般
御倉をかまて帳光し
彩色く年咱る綴めけ
昔没去をいれきよ母
宗にも兵衛の月に押
むらし彼しくしもさ夜
砕さふり底しき人に突当
被眉係に歓りし杜
又会しらい知らも座との墓みんそく
炎しれ路をかかしる座る斗

獨歩庵

交徹叟

強弱交りてきも一対ちしきうれし

詠 歌

禅の事　薬の事
罢色　統の事
人名　茶人の名
面の名　重ケの名
桂和に人作ともも
ちる句又人作に桂和
ざるそくちる句よし
又草木に柳と凧
之草梅と出來草
とふしまく
玄梅しなく梅を出來
草ろうりちを
と暁草と今一ツ
あしもらししひ
郁子 一名 むべ 字令草

十府に移り一物もなし
表怒衰来の面の虫干
借迦陀中くく臼の月と切れ
孫沙さくききにあの浦く色
吹ヶ井涼しくうへよ花咲
牡丹をつらなかしもなかぐる
冬のびんの後をうそ孫る
喝にこくまし蓮の葩
凧炉気宗、営の新
ミの虫もしれ未枯の枝
威德小こし尼師の門
牡丹に蓮る因うれ山
あらししらけく凧炉の中ち
此禅の姿枝も発もなし

清水庵

瀬上瀾山 田舎改

強弱文之一分
[illegible]の変化也
　　松
　　法花
　　旅仲
岡畑の仏[illegible]
風座人の江戸の
仏開
若へ人の引[illegible]不の
[illegible]仁[illegible]生[illegible]
[illegible]

山風[illegible]
[illegible]
[illegible]

おもの弧かうる
手うつかと
桂知　含れ
實色　病体
の匂かと
うう　余ハ十六ハん
とえ含ふ

梅もゝ桐のむらん
汁の毛虫
簾ふ
噎し
負室
芥
井
柚
夜

末綿の萎ふ旨ふ
ふの谷ふふ女　木松
格ふ新ふ雑兵の汁
桂知　織せつんふ　歌
古市の赤性雑ふ神田左
松山と千ふと花の聲川生
片つふ為敏へ桃む石一ッ
表ふ
含参ふ江戸の噴ふる杜若
ふ宗さい多縄ふ帆と上ふく
花藍の色ふ生口の灯の移り
汁の実も大根ふ假ふ雪つく
黄戔ふ細き湯ふの為蜂
彩ふ宅ふまき彩き女房ふ
礼ふ系の魂の角形ふく

無為庵

強弱交之〳〵付句
のこゝろ〳〵
買色　京花名
やうな　こゝろ
しのび　名を
三年根え
三年中ゆう
おもふ〳〵

鈴木中阿

立六ぬ花柚の匂山祇玉ゐ
永〳〵ハせんよ所かゆ〳〵春て
鮒　引きりやるのまとゐ寺宿
尾の〳〵ゆう〳〵糸の當テ
の相売う新をえら〳〵
煙　雨のこゝ筆〳〵共帝を梅
暫〳〵ゆ〳〵ゆ北をえゝ吹
今〳〵の名を分〳〵温泉の山
計〳〵浅をら〳〵松元
是ふそ〳〵の灯を射流して誓玉
桂の下〳〵〳〵〳〵〳〵磨と階まか岭〳〵と
の里のむ〳〵き糸亜

牧野一政 冬英

夬橋庵　其角坐深川宅

強弱交〻一詞
ごつ〳〵少〳〵ゝ句
中宗帳句句は
素化名称〻は
名和の句〻
翼色〻〻と
仰〻〻
私作〻〻吟原
見〻〻
乃至〻〻〻〻
小天遠〻〻〻分句
けり
西風の分〻〻俤
給句〻〻〻

千
面の
掌の
夕
囚
笈纏
茶の
学茶
沐馬
吳
魚
秋
用
手
持

強弱文之一ツの変化十一ヶ別ケ什伝有下之又合之

沖釈　名所　茶名　軍体　賞名　忠臣　帰別　名士名　焼香　川寺　戒名　墓　稽古　白洲

木者庵

深川湖十

深川春色

深川木髪

寸歩庵

沾徳坐

村松子鷹

内田沾山

強弱文字の
勾中の字物の名
行きとしまた
ま一点勾の作と
行くまたの
点行く

神釈 買色
実性
食衣
山衣
要買
話蔵

組
傘
投
馬
世話
小
後悔
吸
忘
城
渋塗
の壺
の帆
雛
いんきん
買
のない
如
松
咽
猿
を
行
茶つけ
とる
指
湖
の
焼
明
てる
有
凡
中
の系
人
の
股
の
襟
ぬ
筆
ま
紙
ない
ま
休
海

付こ句のそそう
半一く
生玉　おく
そそ仰　そそく
そそし　かく考
そそ句そそそ
そそ人の名そそき句
付の表　北口おそ
そそそそ
そそそそ

一玄永
狸
の
海月
大雷小
吹竹
天狗
那
草沢
良葉
名
究

い男小吹出
の
宿住
ハ
雷小延
心中
の
根小後
の
葉
の
土
を
名
く
坊
を生差
口小幸
古い
名
蛇
の
ひ
里
敲
の
掬
を出
を伊
保
ハ
毛
人の羽

稲
蘿
細
之
蛤
舟
二人
一万
元日
合羽
葛
ん
ぐ
ふ
儀

呉服ノ宮
刀鍛治のかた
新発句名所記と
ゑくよし
伊勢山に之る句ならで
物言ひしなどより
天気ぐもり一何ぞ
句と利口ふ似たるもの
近江
折居 新古
東小ち
吉梅悦
新らしく伝ふ香る京
の寺社など此なる名
天中
禅宗 尼の句
山伏 扇子
菓

押をハみとめ白山羽黒山
くハ為しまむきしくの衛杰の名
四川の知る商ひしても丈婦中
青丹よし奈良の亭し出用丁
衛盈るを禁漏の服に深ゑさう
遊ふとまり来多の廓巨山
平を抱て書をまきら
培川ハ千の矢之の追雛
和亭の連衣の数ふ入て尼
交代の荻の衛ト深崇て
役かくのちまし人さるも百使
譲の写さく入歯ろく出る
意眠にハ是似めく咲ひ祭
衛夜儀ハ川ル之從の解菓て
手高り次才を逃ふ数

丸孤齋

一芝の発展をそろふ
して付之句の法
雲用とりつし
まいらくゑ何之
ゐる句きし侍ふ
面白見えきして豈
とらふ屋免もおれ
しょ郎侍の句まう
今ノ衣 火術
病体 弓矢の嗜
胃 女
茂 馬
齋

省佛外

議坊るお医者の個会をまい
啼ゑて伊勢中り辛き絞層
思ひも迷ふ人の衛ぐれて
冬ハるゝ湯改 月山
見えまう蛭ふされゝ分膝
表唄の川ハ知ふる 松唄
向ふに見ゆる家も露 柱
ゑう若手洒白川ふ橋をかけてある
甥に家督ふしての後え
物言奴女の心まりり様
座をてし庁御一ふ結の故ふ
檎ハろして乃おえ川
席まか人数る中二階
手燭を川けハ廻る圓 両

為大

精齋

狩野古信

狩野古信

贈答　葛飾素丸

楠部秀飄

畔徒然

澤灌河

山田 貞和

北齋窓

味岡貞峨

神田庵

江戸一列木村小知

強きうるし付ニ句の
ようをやゝ一ツて
付ハきさしきる

元日の句
年中ゆるす
寒椿 翼色
芝五 吟候

小砂利を敷詰め庭固め
八十合ほどそゝぎ奉るべく
施こもいたまゝかりの吊
門きるくてきくも秋の末
春うゝまるくも開きそのも
万石の塔下 足供る
多ゝ子をてんて菜の壱本
味 毎日のこしらへ 追儀
玉五 大 繁 木 川

分之句のごとき
買色　蟹
おしろい　女
生れ　子の事
京花名　植物
軍　嵐炊亭
孤

蟹　同じく後絶の結
角徒う二階うる叶の花
人の　のごとくやむ　根の巻り
編笠の女も夫も蟹の色
桜小うりむ琴弦の物
絵ごとくせうごとく古びの花
終ぬ　田山うり植木をうん
立田　遠も恵方まいりの筵お
ごとく　加茂川のそとおやまハ低ひ
所　ふるかやうふうと赤うん
なの　ごとくおやまハ探りの蟹の絞うく
皆当をのおうん桃の花
退く　桃の亭乃対ふうひ

三句のもゝう四五句の
足通ハ方陣付ハ
茶句もゝもゝ
もゝもゝ呼もゝもゝ
もゝもゝてもゝ
古人の俤人名意
ハ句毎一もゝ
異色ハもゝ入もゝ
もゝハもゝ
寂おもゝもゝ
句似もゝ調ハ強弱ホ
もゝもゝ地名統意
初季半句ハ
もゝひハ
もゝもゝ
もゝもゝ
下の句中ニ唯

汲鮎
又
秃と
楷
等
和
意盤
句
対
もゝ
雨暮

起渡印秀仙

強弱交之
山形
釈
産体
買色

小栗鳥道

一体和らぎこもる中に
こゝのつもりとくく

菖蒲葺く
世故こゝのつもりの十四日夜
くく和歌の句

夏景
さゝ隔つる小窓の氷
涼風 四方の窓
岸風 山吹の窓
秋夫 春毛 春雪
白波 私田の窓
生嘘

挿画
非戦 哀
買菊 軍作
山哀 楢

歌の後注の末悪義の夜の
峻 岨 を下りく粥小汲澄
白 魚 湾 雪かさう孫増を彩の梅
未 世 の 屋 永の 庭る 南雲
女 の 丈イの 昼 井根
菊 菊 剛の半かぎく
呵 昼 蓮を
一夜 森り秘一誠なる
歌 指ッ 月小 陽春 を父母
戸 居山の過乃掛機廻

青蓋庵

芝赤　角力　桜
狢体　姉妹　初鰹
牡丹　時分　紀文
江ノ島　三津
南田　屠蘇　乳山
夏天の部
妻恋　恋路　日蓮
堂　大安　売り
通世　富士　筵敷
別座　ほの〴〵　出羽坂
〳〵やう坂　まつち穴
こゝろの道　がや〳〵谷
志ん部
時ゝ　連俳　筆者
名乗の如人
被為上候の名前
右の通〳〵と入候叶

二丁　蔦　蕨　蔵前　二丁町　初雪の日を　叫び　初
土用　蝉　庭小屋　一ツおき
蚊の　角力　いつも　保氏山
蜻蛉　ゆる〳〵　馬　ふまこふ
桃　まい　え　そう　好　かく　きす
途中　蝉　休　栗　海　さし
弓　いか　袋　か　母　妹　絆
正月　もそさし　の七日を
去る　物　味　一味　返　会
来　を　結　そふ　日　美里
一羽　坪　をさ　夕　様

競馬
江の島　陽舎　の地名有
三井の系ろ〳〵
まつ〳〵　実情　の句見
出し　名物　おきく　茶屋
天和調
水晶細工
つみ〳〵ま
宇治製造
松吟　一代
まれいにせんろう
之句也〳〵

男　塔　の　基　風　小系る
石丁　の　陰　み　も　をおろし
美　之　る　人　八　合　ふ　ミいれ
伏　家　の　陰　小　ふ　細工
ま〳〵　実情　の　句　見
出し　名物　おきく　茶屋　の　陰　小　ふ　細工
天和調
水晶細工
つみ〳〵ま　前句　撰　をとけ一　信　の　国　小　ふ　札
夜　も　寝　ひ　小　筈　面　の　面　乃　面　う　札
宇治製造　納　所　〳〵　ふ　ろ　ひ　有　場
松吟　一代　物　山　ふ　も　物　ふ　強　ひ　数　の　風　俗
まれいにせんろう　之　句　也　〳〵
競馬　の　部　海　辺　の　あ　乃　物　小　通　松　る
江の島　陽舎　の地名有　者　称　小　八　時　ふ　も　ひ　ふ　縁　者
三井の系ろ〳〵　日　永　小　晴　る　ふ　の　え　物
まつ〳〵　実情　の　句　見　屋　〳〵　造　入　る　筆　の　妙

[redacted]
世話の句
可笑しみの句

青蓋庵

[illegible]
仲人うまく[illegible]
[illegible]
[illegible]

星運堂詞書目録　東叡山下谷竹町　花屋久次郎

詞諧續　諸家発句集　其角宗匠撰　全部　一冊

四季發句帳　江都總宗匠發句　追加諸君御句入　全後編　全十　一冊

家雅見種　南山居士　江戸總宗匠宿所　并別号月々改　一枝筌　夏故齋果然著　萬点一巻完　一冊

霊岡加梨　書中庵一風宗匠点　譜并引ノ附合幕府　等ノ著　全後編　全上　一冊

薄暮川　諸君ノ点譜并句ノ名印　候ヲ八今ニ川ニ相成　程ヲカリ之候ヘ出板筈　全後編　全上　一冊

多景津句碑　有義剣島点前　句共　憲錦波　有義　十二歌仙　一冊

古来庵句集 存義 發句

初鴈 存義側点頭書附風折標

櫻台二十二歌仙 存義列 獨吟集

飾屋 存義側点頭書附

野槌 存義 歌ノ句集

かき野 可因

古来庵句集 可因著 後篇近刻

仁家集 可因

春草集 南山著 巻頭ニ判者知足ノ序アリ

雙猿遊詠 其角坐宗因ノ畫像并發句

野々錦 吉門高矣句集

おのゝえ 祇徳高矣句集

俳諧一代集 三翁ノ發句集

吾妻鏡 全部京高利著

雙喜會儀 在轉俳千句總評高矣ノ句

杯晋問答 其角去来俳論書

俳諧筐鷹 平砂側千歌仙

附合高矣部類 古平砂撰

檜笠句集 鶏口撰

田父句集 上同

俳諧平河 来道撰 不言高矣

買明句集 覚義撰 近刻

正風
手易 俳諧得道解 竟羨著

鵜口發句集 同刻
句帳

きのふけふ 鵜口
花鳥合 室馬独吟
十二歌仙

雲まより 室馬撰

玉海松 幾川發句入
一冊賀

下もえ 室馬著
日光紀行所名書記

俳諧百囀集 桂山俳道
叙書

松もよう 鵜口附合

鵜口
判月並句集

室馬撰
発句集

花實集 北色庵野菊撰

俳諧百人一句 陸馬撰

蕉翁渡唐之像 日光 石摺物

綾錦集 菊間沾凉撰 百人宗匠系譜
第六印句ノ等發句

俳風柳樽 川柳乃句合島良ノ書
初篇ヨリ二十篇出板 毎年一巻宛出版

柳樽拾遺 右川柳ノ柳樽
後篇 初篇ヨリ十篇出ル

全未摘花 全人乃句合未刻ノ可笑句ノ
一画入ニテ著 初篇ヨリ十三篇出来

万句抄 平砂宗匠乃句ヨリ良ノ書
第二ノ島詞前句式入
山水庵撰

江戸四天王 初篇ヨリ乃続篇ニテ
毎年一巻宛出板

若眼鏡 露一撰
開道具ノ歌仙入

燕志月並發句集

俳諧百千草　文来庵　名嶺著

同如是俳　在轉宗匠句　蕉翁百吟追福

遊覧志　雑録宇當部著　山城近江地名古歌并古人發句

東遊覧志　當部著　鎌倉金沢江島三浦箱根温泉凡地名所古歌并古人ノ發句ヲ記ス東海道

所名集　武江近在ニ限ラス人家東海道鎌倉京近在流行所多

百合花　蝶亭一万句・高是

種まき志　蝶亭著　後編

同折花集　名嶺中陽令

同千々の佳解　立志　島雪著

退住五十五歳後篇ナリ

増補俳諧礎　今ト近刻

健一漁著　當時流行句數ノ調五文字七文字ノ事ヲ記

同千里獨歩　素綾著　自然自得スル世界也

同年代記　素綾著　年細記

同後編　全上　出来　三篇調出

百千鳥　園女發句　高判

俳諧二冊子　白山著　名徳座歌仙ノ發句ヲ

同器新集　得器宗匠　高判

桑林　岩松著　歌仙發句

俳諧五萬戈　得器著　五萬句高点

俳諧萱野　半砂著　聖廟鄉年四集

芭蕉二見浮文墨記　南山著　天地人ノ序アリ

てい　南山著　一世ノ宗匠ニ到著ノ俳諧ヲ評ス

かい　揚梅の梅

○靈門俳書類目錄

俳諧句帖紙　牛心著　画入發句歌仙

靈門發句帳　同　一冊之句著　靈にうり三編　近刻

同　拔萃　同　亀戸天満宮奉納額面之發句

一陽井素外先生著　鶏談密藏

梅翁發句集

江戸川　是も蕎麦取の句ゆえ前句ハ二三子真徳淀川二做ひ素外點中数ヶ附句ニ而

類句辨　古人ノ類句ヲ並テ見安キヨウニセシモノ

五色梅　素外連中梅題發句

古蕎麦素外抱筆千句　蕎麦屋帰名々発取ノ開句ヲヒロヒ素外点中数ヶ附句ニテ繰リ千句トナセル由

一物連歌　宝暦素外派道得者同席ニ而発句をつく各指吟ニ而

古今七夕發句集　ヒノノ色紙短尺ヘ書ヤスキヤウノアハセ人

紀行奇異　素外派道俳諧堂ニ而ノ一筆ノヲ記ス

手毬花　一陽井評物　高爽

百貫樋　素外一百句　高爽

天狗ぶり　猫堂ノ記ス

猿蓑波集　附合及向前句付部分著

俳諧十歌僊　五色墨版　三日菴著

俳諧社松梅　平砂例附合　点句下流著

玉花勝覧　むさし小金井掛通社有俤撰

同神田集　芳仙古今發句神田菴撰

同神の梅　同上　同人集

東武多少庵俳書目

鹿島紀行　芭蕉翁真蹟並風月　星運堂　花屋久次郎

其葉裏　松籟庵終焉記并百句　同門二季發句　多少庵扶風撰

奥州道途　同門二季發句并雪仙　多少庵道之撰

續句時鳥　同門郭公句并百句　多少庵撰

卯辰集　其林　其因　抱路　庾父　涼袋　其外同門諸仙之發句　遷喬堂　栗山子和

句競秀撰　白達磨見風　多少庵秋風吟　抱山亭門越撰　松籟庵

甲子吟行　芭蕉翁真筆　波静撰

大無發句集　松籟庵撰

ふさ木し嶋　柯居傳系句集
秋风撰

寛政百貞多少庵句巣　全部二巻

同句巣後編　附録附合等

全部一巻

御誂物處

花屋
久次郎